

## 「医学生・研修医の日本内科学会ことはじめ 2019名古屋」 開催にあたって

第116回日本内科学会総会・講演会 会長  
名古屋大学大学院医学系研究科 病態内科学講座 呼吸器内科学  
教授 長谷川好規



日本内科学会「ことはじめ」は、第116回日本内科学会総会・講演会に併せて開催されます。本会は、第109回（2012年）日本内科学会総会・講演会において初めて企画され、第111回から毎年開催されています。これからの内科学を担う医学生、初期研修医、専門研修医がその役割の主役です。第1回では「内科の使命と未来を見つめよう」と題して、専門分野の入り口でもあり、包括的かつ総合的な学問である内科学の魅力再認識を促す企画されました。今回で7回目の開催となりますが、当初70演題のポスターセッションでスタートしましたが、今や応募演題数は500演題に迫る勢いです。会場は、発表の医学生・研修医ばかりでなく、応援の同僚やメンターの先生、所属教室の教授など、熱気あふれるばかりです。ぜひ、内科を目指す多くの若い諸君に参加いただき、「ことはじめ」を体験して欲しいと期待しています。

「ことはじめ」は4つの企画で構成されています。第1は、本会の中心となる臨床研究のポスター発表です。応募演題はすべてポスターセッションで発表していただきますが、抄録審査により10名前後の優秀演題受賞者が選出され、プレナリーセッションにて口述発表を行います。また、当日のポスター発表からも、座長採点による優秀演題賞が選出され、いずれの演題も表彰式にて賞状とすばらしい副賞が与えられます。

第2は、本年度の新たな取り組みで、米国内科学会（ACP）日本支部との合同企画セッションを行います。これからの日本が避けて通れない国際化・グローバル化の流れのなかで、英語が苦手なあなたも、少しだけでも米国流内科研修医教育を体験しませんか。症例を用いた診断法、診断のピットフォールを中心に少人数制のグループディスカッションを企画しています。

第3は、皆さんにとって、これからの目標となるであろう「内科専門医」の取得に際し「試験の実際とポイント」について講演いただきます。

第4は、実践内科塾です。研修医諸君に登壇いただき、内科疾患の症例検討会を行います。さながら内科学会版「ドクターG」です。皆さんのロールモデルとなるモデレーターの先生とともに内科診療の醍醐味を楽しんでください。

本年度の日本内科学会総会・講演会のテーマは、「新時代の内科学の創造～分化と統合、そして融合～」です。2019年4月は、まさに「平成」に終わりを告げ、新しい年号へのバトンタッチの時です。超高齢社会、情報通信技術や人工知能の技術革新など、社会のあり方が大きく変わろうとしています。このような時代の中で、新しい科学・内科学を創造していくことが若い皆さんに期待されています。「ことはじめ」が皆さんの将来のキャリア形成の一助になれば幸いです。